授業科目名	障害者福祉研究	単位数	2
担当教員名	佐々木　剛	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	授業者は、特別支援学校及び通常の学校現場を経験し、その後、教育行政で研修の企画や運営を担当してきた。また、その経験の延長から福祉と学校教育を結ぶスクールソーシャルワーク（SSW）の実務を担っている。研究分野では高齢者や障害者と地域との結びつきを世代間交流から追究している。		

「学位授与の方針」との関係

本講座では、社会啓発の観点から障害観や教育論、医療･看護の概念等、社会一般が持つ意識を整理する授業を進める。ここで求める概念は、本学が掲げる「共生科学」の基本構成要素を探求する人材育成に寄与する。本講座は、福祉や教育の分野で活躍する人の持つ規範意識・倫理観を高め、社会に深く寄与する人材育成につながることを目的としている。

授業の到達目標及びテーマ

（１）身近なところで起きている障害者をめぐる課題を受け止め、その要因を自分で考えることができる。

（２）障害のある人をめぐる現状の体制を公共福祉に根ざすインクルージョンの理念から再考し、今後のあり方について実践的に考え、実行しようとする。

（３）障害のある人や子どもの福祉の方策について、幅広く国内外の動向から手法を学ぼうとする。特に、ソーシャルワーク等関連する分野との連携・連動を考え行動する。

（４）障害の種別や程度により生じる諸課題について考え、生活支援とは何かをレポートにその具体的な考えを記述し、提言しようとする。

（５）社会参加のために｢ソーシャル･キャピタル｣等、新しい分野の研究や活動に目を向け、「橋渡し型ネットワーク｣の構築を追究、もしくは考えようとする。

授業の概要

「障害者福祉研究」は、研究者の養成のための講座ではありませんが、受講者が持つ身近なテーマを基にして、障害者の問題を国内法や諸政策との整合性から探り、その内容を精査し、自らの実践を再評価します。

近年、ICF(国際生活機能分類)により「日常生活の不便さ」まで一般化されてきていますが、まだ、少なからず、障害への見方・考え方に、行動や活動を見守ることを大切にする偏見の意識が見られます。授業では、この偏見や間違った意識を無くすために自分たちに何ができるのかを、受講者の持つ課題に照らして一緒に考えます。

特に、授業では、障害者の社会参加を促進するために必要な福祉の整備について、環境の側面だけではなく、今日の家族観、共生の考え方から内容を考察します。そのため、受講者の学修に必要な情報を、適時、クラスルーム等で共有します。

授業計画

第１回：今日、生じている障害者をめぐる問題について(情報化時代の人間観とは)

第２回：ICF 成立の過程と障害観の変遷

第３回：生活モデルの提言は社会を変えたのか

第４回：障害者福祉に影響を与えた歴史的なできごと　「世界的な動向及び日本の動向」

第５回：障害者福祉と地域生活－映画や文学作品により現状を把握する－

第６回：障害者福祉と医学・看護との関連－映画や文学作品により現状を把握する－

第７回：障害者福祉と保育・教育との関連－映画や文学作品により現状を把握する－
第８回：障害者福祉と自立生活及び就労と現状分析－受講者の体験など現状を分析する－
第９回：障害者への理解は進んでいるのか　（１）ボランティアとは何か
第１０回：障害者への理解は進んでいるのか　（２）バリアフリーとコンフリクト
第１１回：障害者への理解は進んでいるのか　（３）ソーシャル･キャピタルと福祉概念
第１２回：橋渡し型ネットワークと結合型ネットワークの違いと、それぞれの利点および課題
第１３回：実践的障害者福祉論その１　－自らとの関係を考える－
第１４回：実践的障害者福祉論その２　－支援計画の立案と実践－
第１５回：実践的障害者福祉論その３　－共生社会実現に向けた諸課題－
定期試験

学修内容を深めるための履修概念の Point

Point1　教科書に記されている概要から「障害者福祉研究」が求める課題を整理する。
Point2　「社会福祉制度の変遷と社会福祉制度に存在する課題」から、自らの実践と行動を見直す。
Point3　上記の見直しに照らし合わせて「障害と社会参加に必要な環境の考え方」を探る。
Point4　「社会参加と教育及び生活支援」を考えた場合に、立ちはだかる課題に関連付けて自己課題を整理する（考えが行動につながる道筋を考える）。
Point5　「国際的動向と今後の障害者福祉のあり方」で、日本に課された課題とは何かを考える(社会全体を見渡す習慣づけをする)。
Point6　「社会参加に必要なソーシャル･キャピタル」や「スクールソーシャルワーク」による概念の構築とその可能性を加えた障害者福祉の全体像を再考察する。

学修の支援

①準備しているレポートの内容と、そこから得られる課題事項とそれら課題に向き合う受講者の考え方について、適時、クラスルームを通して助言を行う。
②本講座では、教科書 2 冊を示しているが、この教科書を基にして「授業目標」にある「橋渡し型ネットワーク」構築の観点からそれぞれの実践が進むようになることを願っている。
③最終的に上記「学位授与の方針との関係」に示す「社会啓発の観点から障害観や教育論、医療･看護の概念等、社会一般が持つ意識を整理した授業を進めている。この概念は、本学が掲げる『共生科学』の基本構成要素を探求する人材育成に寄与する」ための意識形成と倫理観につながる。

教科書

(1)　佐藤 久夫･小澤 温『障害者福祉の世界　第５版』有斐閣　２０１６年
(2)　稲葉 陽二『ソーシャル･キャピタル入門　孤立から絆へ』中央公論新社　２０１１年

参考文献

（１）室田 保夫（編著）『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルバ書房
（２）ピーター･ミットラー（著）山口 薫（訳）『インクルージョン教育への道』東京大学出版会
（３）藤本 文朗･小川 克正『障害児教育学の現状･課題･将来　改訂版』培風館
（４）障害者福祉研究会（編）『ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－』中央法規
（５）広井 良典『持続可能な福祉社会－「もう一つの日本」の構想－』ちくま新書
（６）小浜 逸郎『弱者とはだれか』PHP 選書

（７）杉本 章『障害者はどう生きてきたか－戦前･戦後障害者運動史－増補改訂版』
現代書館
（８）石部 元雄・上田 征三・高橋 実・柳本 雄次（編）『よくわかる障害児教育第２版』
ミネルバ書房
（９）茂木 俊彦『障害児教育を考える』岩波新書
（１０）石原 邦雄『改訂版　家族のストレスとサポート』放送大学教育振興会
（１１）ロバート・パットナム著　柴内 康文（訳）『孤独なボーリング－米国コミュニティの崩壊と再生－』柏書房
（１２）ロバート・パットナム著『われらの子ども－米国における機会格差の拡大－』
創元社
（１３）川本 敏郎『こころみ学園　奇蹟のワイン』日本放送協会
(１４) 山岸俊男著『安心社会から信頼社会－日本型システムの行方－』中公新書
（１５）吉村英夫著『ヘタな人生論より寅さんのひと言』河出文庫
（１６）ジョン・ロールズ著　川本隆史訳『正義論改訂版』紀伊国屋書店
（１７）ブレディみかこ著『子どもたちの階級闘争　ﾌﾞﾛｰｸﾝ・ﾌﾞﾘﾃﾝの無料託児所から
みすず書房
（１８）川崎一彦・澤野由紀子・鈴木賢志・西浦和樹・アールベリエル松井久子著 『みんなの教育 スウェーデンの「人を育てる」国家戦略』ミツイパブリッシング
（１９）吉野源三郎原作・羽賀翔一漫画 『君たちはどう生きるか』 マガジンハウス
（２０）大島巌・奥野英子・中野敏子編　「障害者福祉とソーシャルワーク」　有斐閣
（２１）山下英三郎著「スクールソーシャルワーク ー学校における新たな支援システム」
学苑社
（２２）山野則子・峰本耕治編著　「スクールソーシャルワークの可能性」　ミネルバ書房
（２３）子どもの貧困に向き合える学校づくり　地域のなかのスクールソーシャルワーク
鈴木康裕他著　かもがわ出版

学生に対する評価
レポート評価（５０％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。